

再現

香南中学校 授業づくり講座 授業研究会 (2019/10/31)

(授業開始前にハロウィン動画で英語の授業の雰囲気作り)



導入 Speech and Report

スピーチを聞く 以前に単元末で作成した表現を再度用いて発表する。(一度で終わらせない。)

Hello, my name is ○○. I'm from Kochi. My favorite group is King and Prince. It's because they're very cool. They dance well. Do you know them? Thank you.

→発表後、既習を使わせるために Q and A を行う。 ①様々に質問させる ②内容についてコメントを伝える
*リアクション・・・I see.や Me, too. Nice.等以外に、相手が話した内容を繰り返すことも効果的。

リポートする→ノートに書く 互いに発表内容についてリポートし、ノートに書く。

Her name is ○○. She is from Kochi. She likes King and Prince. It's because they are cool. They ...



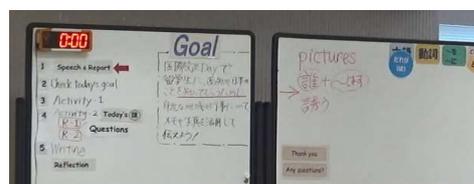
*リポートさせることで既習内容を呼び起こし、何度も使わせることで定着に繋げる。



目標の確認

国際 Day で留学生に高知や日本のことを知ってもらうために、身近な地域の行事についてメモや写真を活用して伝えよう。

「(語順カードを示しながら) 誰が 何をするかが相手に分かればどんな行事なのか理解できるね。」



導入 (聞く→話す→書く 10分弱)

展開

言語活動 1回目 タブレットなどで写真を見せながらペアで伝え合う。
opening, body, closing, + eye contact, clear voice, reaction 等に気を付けさせる。



言語活動 2回目 (参観の先生と)

This is *Enko* Festival. It's in June. People prepare cucumbers. It's because *enko* likes cucumbers. *Enko* is a *kappa* monster. We tried *sumo* and at night we enjoyed fireworks. That's all. Thank you for listening. (えんこう祭りについて)



中間評価 1回目

「英語で言いたかったのに言えなかったことない?」

答えをすぐに教えるのではなく、生徒と一緒に既習を用いて言えないか考える。

*文を砕く、表現を変える、具体例に変えて伝えていく等に気付かせる。

「質問されたことはマッピングに付け足してね。」

*質問された内容は足りない情報なので加筆し、推敲に活かす。



共有 1 回目

Hello, I'm ○○. This is *Imotaki*. It's food festival. It's in October. It's on night. It's in Matsuyama. You can see Matsuyama Castle. Potato, *konnyaku*, chicken, *abura-age*. It's delicious. Thank you. (芋炊きについて)



中間評価 2 回目 次のターンでは何に気を付けるのかを一緒に確認する。

ALT より円滑なコミュニケーションの為のリアクションについて伝える。

「英語はゆっくり分かりやすく話している。アイコンタクトやリアクションにもっと気を付けよう。相手にきちんと伝わるようにクリアボイスで話すことも必要だよ。」



言語活動 3 回目 別の参観の先生と 2 回目 (A 君の場合)

Hello, my name is ○○. This is Cosmos Festival. Cosmos is very beautiful and famous. Cosmos is three color. I like white color cosmos. I like white color cosmos. Food is good. (コスモス祭りについて)



言語活動 4 回目 別の参観の先生と 3 回目 (A 君の場合)

I am ○○. This is Cosmos Festival. Cosmos is beautiful. Cosmos Festival is very famous. Cosmos is three color. I like white color cosmos. Cosmos Festival is very good food.

Q (聞き手から) What food do they have? え? えっと...
Do they have takoyaki? あ、Yes, takoyaki.
(かき氷もあるって伝えたい!) なんて言ったらいい?.....あ、Ice!

即興で話す力が求められています。生徒は必死に思考しています。

*聞き手に質問されることで、どう答えようかと思考する。相手を変えて話すことでそれぞれ違った反応や質問を得られ、それらを活かすことでより豊かな表現内容へと再構築することができる。

(子供同士で質問し合うには 5 W1H で問える力を養うことも必要。)

共有 2 回目 中間評価に活かすため

This is *Entai* Concert. This is *entai*. *Entai* in a *Shiragiku* in the war. We can see *Okinawasen* picture and airplane model. They sing with peace. Thank you for listening. (掩体について)



中間評価 3 回目

「Who sings the song? 自分は入って歌ってないから we じゃなくて they。」

だから They sing for peace.なのね。」

* 中間評価で使わせたい表現を共有し、ミスの修正を行う。

言語活動 5回目 別の参観の先生と4回目 (A君の場合)

新たな表現が加わる!

My name is ○○. This is Cosmos Festival. Do you know Cosmos Festival?
Cosmos is very beautiful. Cosmos Festival is famous. Cosmos is three color.
I like white color cosmos. Cosmos Festival is very good food.

Q (聞き手) Where is Cosmos Festival? Where?

え、なんて答えたら・・・。(南国市?の具体例に) Yeah! あー、No! 越知町。

Q (聞き手) Who did you go with?

ええ?なんて答えたらいい?・・・I went to・・・Cosmos Festival・・・なんて答えたら・・・

Q (聞き手) With your family? (笑顔)

Q (聞き手) Did you have a good time? (笑顔)

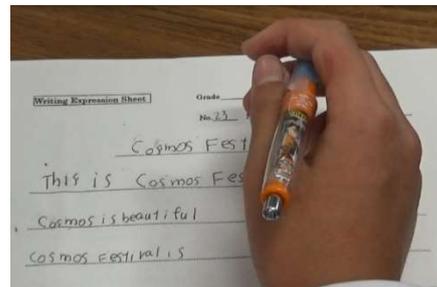
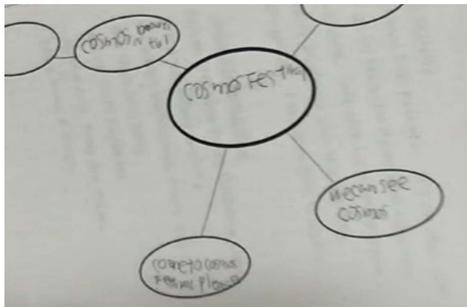


思考中。
今までに習った内容が頭
の中を駆け巡ります。

まとめ

「自分の説明で興味が湧いてくれたと思う? 誰が 何をするかに気をつけて、伝えたい内容が相手にきちんと伝わった?」と再度目標と照らしながら子供達にさらに考えさせます。

今日話した内容が適切だったのか、参観の先生方から質問されたことを付け足すにはどう表現すれば良いのか等、加筆したマッピングを見直したり、辞書で単語を探したりして、書きながらも推敲しています。



3回目 共有 (最後)

This is *Abare Matsuri*. We have *Abare Matsuri* in Muroto *Misaki*. It's in August. This is *Shishimai*.
Shishimai like a children. Men carry *omikoshi*. They shake it. We get good luck. (あばれ祭りについて)

Q Why do you like *Abare Matsuri*? Why did you choose it?

A It's because my father is from Muroto.



なぜ室戸の「あばれ祭り」をあえて選んだのか、ここで初めてわかります。次の推敲に活かせる質問を。

「息子にあんなふうに言われたら泣きます。」(山田教科調査官)

ふりかえり

ALT と JTE の振り返り

生徒は自己評価を記入し発表。指導者は本時の目標に照らし評価する。



香南中学校英語科の授業を通して見えてきたことは、場面設定の明確化、生徒が行う言語活動の質の深まりと十分な量の確保、資質・能力ベースの単元計画、生徒に気付かせ考えさせる言語活動後の指導の重要性でした。

当日は 50 分間の授業の中で言語活動が 5 回、指導者の指導（中間評価）が 3 回、全体共有が 2 回と、生徒が聞いたり、話したり、書いたりしながら、たっぷりと英語に触れる時間が確保されていました。

生徒達はそれぞれに話したい内容と気持ちがあり、ミスはたくさんありましたが、間違うことを恐れず即興のやり取りの中で話し続けました。

中間評価では言語活動後の指導をどう行うことが生徒の深い学びにつながるのかを明確にした上で、生徒が言えなかった表現を英語にするだけでなく、ホワイトボードに意識させたいことや共有したい表現等を繰り返し可視化したり、語順カードや疑問詞などを常に示したりしていました。

小学校外国語活動で学んだことを基に、十分に聞いたり話したりする活動を優先することで、英文を読んだり書いたりすることが苦手な生徒も豊かに自分の気持ちを伝えながら思考し続けました。

*詳しくは、授業づくり講座の振り返りシートで再度ご確認ください。

令和 2 年度 英語授業づくり講座

須崎市立多ノ郷小学校 9/24 教材研究会（直山視学官 参加）

10/21 授業研究会

須崎市立朝ヶ丘中学校 10/6 教材研究会（山田教科調査官 参加）

11/10 授業研究会